

平成18年度「専修学校を活用した職業意識の啓発推進」成果報告書

事業名	地元自治体・関係機関と連携をした、介護職に対する職業意識の高揚		
法人名	学校法人 帯広コア学園		
学校名	帯広コンピュータ・福祉専門学校		
代表者	理事長 神山 恵美子	担当者 連絡先	遠田 康美 TEL 0155-48-6000

1. 事業の概要

介護職従事者の増員を図るべく、地元自治体・関係機関と連携し、「介護職の必要性とその魅力」について、職業体験講座や講演会・シンポジウム等を開催し、介護職のやりがい・可能性等を伝える。
また、介護福祉界の活性化に資するとともに、地元教育委員会と連携し中学生なども含めた若年者、さらには、シニア層にまで幅広く職業意識の啓発と高揚を図る。

①内容

(1)講演会

実施日:平成18年9月8日(金)
テーマ:「介護職の必要性とその魅力」

(2)シンポジウム

実施日:平成18年11月9日(木)
テーマ:「介護職の必要性とその魅力」

(3)職業体験講座

(3-1)職業体験講座1

実施日:平成18年9月16日(土)
内 容:施設介護体験「高齢者疑似体験と介護技術の基礎」

(3-2)職業体験講座2

実施日:平成18年11月18日(土)
内 容:居宅介護体験「高齢者の食事とその介助」

(4)意識調査

調査内容:介護職に対する職業意識調査
調査期間:平成18年11月2日～27日

(5)報告会

実施日:平成18年12月21日(木)
テーマ:「介護職の必要性とその魅力」

②事業協力機関等

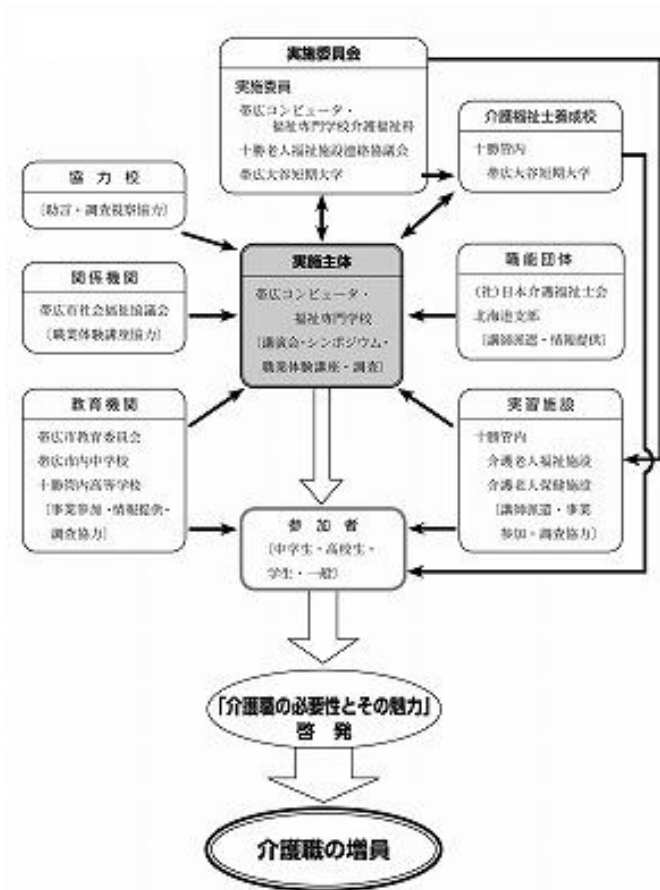
専修学校、企業名等	具体的な協力方法
帯広コンピュータ・福祉専門学校	実施校
都城コンピュータ・福祉医療専門学校	協力実施校
帯広市教育委員会	協力実施団体
日本介護福祉社会 北海道支部	協力実施団体
帯広市社会福祉協議会	協力実施団体
十勝老人福祉施設連絡協議会	実態調査協力
十勝管内老人保健施設	実態調査協力

③実施委員会

全2回実施

氏名	所属	職名	役割等
畠山 晴美	帯広コンピュータ・福祉専門学校	介護福祉科主任	委員長
遠田 康美	帯広コンピュータ・福祉専門学校	介護福祉科専任講師	連絡調整・調査担当
小室 国裕	帯広コンピュータ・福祉専門学校	介護福祉科専任講師	職業体験講座担当
山本 進	鹿追恵愛会 特別養護老人ホーム シャクなげ荘	施設長	アドバイザー
菅野 節子	帯広大谷短期大学	社会福祉科教授	アドバイザー

④事業実施体系図



2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

- ・地元自治体・関係機関(具体的には、地元介護福祉士養成校、地元介護福祉士会、実習施設)と連携が強まった。
- ・「介護職の必要性とその魅力」をテーマにし、職業体験講座や講演会・シンポジウム等を開催し、介護職のやりがい・可能性を地域に発信できた。
- ・介護福祉界の活性化の契機づけを図ることができた。
- ・地元教育委員会(地元中学校、高等学校)との連携ができた。
- ・介護福祉士を目指す学生に対して、魅力ある介護職の啓発活動となった。しかし、意識調査の協力は得られたものの、若年層である中学生に対して直接の啓発活動はわずか2名にとどまった。

②事業により得られた成果

(1) 講演会

テーマ：「介護職の必要性とその魅力」

成果： 職能団体である(社)日本介護福祉士会北海道支部の第一線で活躍している介護福祉士から、人の笑顔に触れる介護の仕事の魅力、日常生活を支える介護職の必要性、介護職の活躍の場、目指していく方向性について講演を頂いた。このように、資格の重要性や就職してからの自己研鑽(知識の蓄積)の重要性を訴えることができた。

(2) シンポジウム

テーマ：「介護職の必要性とその魅力」

成果： 介護関連職種のシンポジストを招き、介護職は、利用者に一番近い存在で介護の中核を担っていることこそが魅力であり、社会的に必要不可欠な存在である職業であることが伝えられた。

(3) 職業体験講座

内 容： 施設介護体験「高齢者疑似体験と介護技術の基礎」

居宅介護体験「高齢者の食事とその介助」

成 果： 参加者が中学生から一般と幅広く、参加目的も職業体験の他、実際の家庭介護のためであったりと多様なものであった。また、本講座を高校の職業体験の講義依頼もあり実施。

(4) 意識調査

内 容： 介護職に対する職業意識調査

テーマ： 調査1 「介護職のイメージ」

調査2 「介護職の現実と魅力」

対 象： 調査1 中学生および高校生

調査2 介護現場職員

結 果： 介護職の人材不足の要因は、介護職に3K（きつい・きたない・きけん）のイメージがあるのではないかという仮説に基づき、介護職の魅力とは何なのかを明らかにすべく、中高生及び介護現場職員に意識調査を実施した。その結果、中高生に対して実施した調査では、介護職を3Kであるとイメージしている回答は1割も満たなかった。そして、介護職のイメージをプラスに捉えている回答は6割を超えていた。よって、介護職の人材不足の要因は、介護職のイメージが3Kであることではないということが明らかになった。また、介護現場の満足点、不満足点を把握するとともに、介護職の魅力を事例を通して把握することができた。

(5) 報告会

テーマ： 「介護職の必要性とその魅力」

成 果： 地元の関係機関、介護福祉士養成校、介護現場施設との連携がさらに強まり、本校が地域福祉活動や人材育成の発信拠点となつて、介護職増員にむけての啓発活動に取り組む契機となった。

③今後の活用

介護福祉界の活性化と介護従事者増員を図るべく、

- (1) 十勝管内介護福祉士養成校の連携協力
- (2) 十勝管内介護現場施設との連携協力
- (3) 十勝管内中学校及び高等学校との連携協力
- (4) 公開講座の定期的実施

など、本校が地域福祉活動や人材育成の発信拠点となり、益々地元自治体・関係機関との連携を深め介護職に対する職業意識の高揚に取り組む。

④次年度以降における課題・展開

- (1) 十勝管内介護福祉士養成校の連携協力
 - ・定期的連絡会の実施
 - ・介護教育の合同研究
 - ・公開講座、介護職員研修の合同実施
- (2) 十勝管内介護現場施設との連携協力
 - ・中高生の職業体験の協力依頼
 - ・介護実習教育の連携強化
 - ・介護職の魅力啓発
 - ・介護職員研修の協力
 - ・労働条件の改善活動
- (3) 十勝管内中学校及び高等学校との連携協力
 - ・教育委員会との連携強化
 - ・総合学習カリキュラムとの連携
 - ・出前講座の実施
 - ・オープンキャンパスの中学生参加
- (4) 公開講座の定期的実施
 - ・場所、時間帯、対象者の検討
 - ・対象者別の講座の実施
 - ・中高生及び地域住民ニーズを把握する
 - ・地域福祉活動や人材育成の発信拠点となる内容を検討

3. 事業の実施に関する項目

(1)講演会

日 時:平成18年9月8日(金) 16:30～18:00
テーマ:「介護職の必要性とその魅力」
受講者数:113名(高校生、専門学校生、短大生、一般、施設職員、事業関係者)
受講者の反応:受講者の88.5%が「とてもよかった」「よかった」と感想
工夫した点: 職能団体である日本介護福祉士会の地元支部に協力を依頼し、
本校と職能団体との連携で啓発事業に取り組んだ点。
啓発の内容: 介護職の魅力と専門職としての介護福祉士像を啓発。

(2)シンポジウム

日 時:平成18年11月9日(木) 16:30～18:00
テーマ:「介護職の必要性とその魅力」
受講者数:101名(高校生、専門学校生、短大生、一般、施設職員、事業関係者)
受講者の反応:受講者の77.2%が「とてもよかった」「よかった」と感想
工夫した点:シンポジストに、介護関連職種の方々を招いた点。
啓発の内容:経営・教育・介護・看護の各視点で介護職の必要性や魅力を啓発。

(3)職業体験講座

(3-1)職業体験講座1

日 時:平成18年9月16日(土) 10:00～13:00
内 容:施設介護体験「高齢者疑似体験と介護技術の基礎」
受講者数:19名(高校生、一般その他)
受講者の反応:受講者の89.5%が「とてもよかった」「よかった」とアンケートで回答
工夫した点:・高齢者疑似体験装具を地元社会福祉協議会からレンタルし、
受講者全員に装具を着用させた点。
・本校学生をサポーターとして起用し高校生との交流を図った点。
啓発の内容:高齢者の疑似体験により、要介護者の心身の状況を把握した上で、
介護の必要性を実感させる。

(3-2)職業体験講座2

日 時:平成18年11月18日(土) 10:00～13:00
内 容:居宅介護体験「高齢者の食事とその介助」
受講者数:8名(中学生、高校生、一般)
受講者の反応:受講者の100%が「とてもよかった」「よかった」と感想
工夫した点:・居宅介護の理解のために、介護食の調理実習を行い、
その料理を用い食事介助を体験した点。
・本校学生をサポーターとして起用し高校生との交流を図った点。
啓発の内容: 居宅における介護技術の体験により、
施設介護に加え、居宅介護の重要性を啓発。

(4)意識調査

調査内容:介護職に対する職業意識調査
調査テーマ:
調査1「介護職のイメージ」
調査2「介護職の現実と魅力」
調査対象:
調査1 帯広市内中学2年生及び十勝管内高校2年生 計442名
調査2 本校実習施設等 30施設 計150名
調査方法:
調査1 留置調査
調査2 郵送調査
調査期間:
調査1 平成18年11月8日～27日
調査2 平成18年11月2日～20日
回答率:
調査1 100%(対象者数442名、回収数442名)
調査2 64%(対象者数150名、回収数 96名)

(5)報告会

日 時:平成18年12月21日(木) 16:30～18:00
テーマ:「介護職の必要性とその魅力」
受講者数:38名(専門学校生、一般、施設職員、事業関係者)
受講者の反応:受講者の71.1%が「とてもよかった」「よかった」と感想
啓発した内容:中高生だけでなく、介護職を目指す学生、現場介護職員の
介護職の魅力の再確認と、今後の啓発活動の重要性を伝えた。